



12月3日新聞記事について

2016年12月5日

一般財団法人製品安全協会

日頃より当協会のご理解・ご協力賜りまして誠にありがとうございます。

さて、12月3日付、一部の新聞でSGマークの安全性についての記事が掲載されております。配信元の一般社団法人共同通信社から当協会も取材を受け、誤解がないような書きぶりを要請したのですが十分受け入れてもらえず、結果として皆様にご心配、ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。

以下、記事に関して、特に誤解を生じかねない点について補足説明します。

1 事故件数について

製品評価技術基盤機構(NITE)によればSGマークの付いた製品の事故が10年間で1259件となっております。NITEは通達に基づき、事故が起きた際の報告を事業者に要請しており、事故報告の総件数は記事の最後に記載されているように10年間で3万6千件に上っております。本来、両方の数字が併記されるべきところ、恣意的に別記され、また3万6千件の中にもさらにSGマーク付き製品が含まれているかのような誤解を招く記述がなされているのは誠に遺憾であります。数字を論じるうえでは、母数を明確にして比較することが重要と考えます。また、10年間の死亡事故は、SGマーク付き製品で1件、製品に起因しない事故のみですが、NITEに報告された事故全体の中では770件発生しております。

事業者からNITEへの事故報告はあくまでも任意であります。SGマークを表示している事業者の多くは、NITEへの報告制度を社内規定で定めております。

2 事故原因について

事故原因はNITEの集計にあるように、その多くが誤使用や不注意によるもので、どのような製品も正しく使うことが重要です。誤使用、不注意による事故を踏まえて、基準改正を行ったケースもありますが、消費者の皆様には各製品の取扱説明書に従って正しくお使いいただくようお願い申し上げます。

また、ベビーカーに関する記述中、折り畳み式製品の壊れる事故が多かったとの記述がありますが、特定の製品でフレームを究極まで細くした結果、破損事故が多発し、結果としてこの案件がSG付き製品10年間の事故1259件の半数以上を占めております。人身事故は殆ど発生しておりませんが、その後リコールを行い、フレームの強度を高めております。

今後とも SG 製品の安全性の向上に向けて努める所存であり、皆さまのご理解、ご協力をよろしく
お願い申し上げます。

お問い合わせ先

業務グループ

TEL03-5808-3302 FAX03-5808-3305

E-Mail operation@sg-mark.org